

ご挨拶

医療経済学会設立にあたって

京都大学大学院経済学研究科教授
西村 周三

日本において、医療経済学会を設立しようという動きは、これまでに何度かありました。しかしながら、残念なことにその試みは幾度にわたり頓挫してきました。その重要な原因の一つは、学会において発表する論文の質について、経済学者と医療従事者との間でかなりの見方のギャップがあったことによります。学会がその存在意義を持つかどうかは、そこで論文が発表されて、学术交流が進むかが生命線なわけですから、このギャップが埋まらないことには、学会を設立する意味がないことになります。

従来「医療経済研究機構」では、その機関誌として、レフェリー制（査読制）を採用する『医療経済研究』を発行してきましたが、この審査過程で、経済学者と医療従事者との間で、その質についての判断が大きく分かれるという経験をしました。たとえば経済学においては、実証研究において、その統計的分析に、ある種の確立した手法がありますが、これは医療従事者の使い慣れたそれとはかなり異なるようです。他方で、経済学者の書く論文には、統計的手法はある水準を満たしているが、どう考えても、日本の医療制度に関する理解が不足した上で、ただ統計データを処理したとしか思えないものも少なくありません。論文の迅速な作成の蓄積が大学や研究機関での昇進の重要な判断基準となる現状では、業績として認められるまでのスピードが重要となっています。上記のような、レフェリーとのやりとりを通じて、時間をかけて論文の質を高めるというプロセスは、しばしば論文投稿者に嫌がられることもあります。既成の学問分野にとどまって論文を書く方がずっと安易に業績が上がるからです。

しかしながら、このような愚痴を言っているだけでは、いつまで経っても学問的水準は上がりません。やはり一刻も早く学会を立ち上げて、上記のギャップを埋める努力をせねば、というのが発起人たち一同の意を体した私の率直な気持ちです。

新たに学会を立ち上げて、装いも新たに、本誌の革新を目指そうとする有志の意向をご理解いただいて、多くの良質の論文が、学会大会などで発表され、またそれらが本誌に投稿されることを切に願います。このようなお願いを込めて、設立のご挨拶とさせていただきます。